

平成 23 年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	小城市立桜岡小学校		
2 所在地	小城市小城町 1 6 6 番地		
3 校長名	緒方 眞智子		
4 学級数 児童生徒数	2 学級 62 人	5 実施学年 児童生徒数	3 年 62 人

6 取組のねらい

- ・ 自分たちが住んでいる町にある、高齢者のための施設や障がい者のための設備に関心を持ち、みんなが生活しやすいように工夫されていることを知る。
- ・ 地域の人たちのために自分たちができることを考える。

7 取組の実際

「身の回りのバリアフリーを調べよう」

(1) アイマスク体験をしよう

アイマスクをして校舎内を歩き、視覚に障がいがある場合の不自由さを知った。また二人組で歩くことにより、段差のあるところでの声のかけ方や、一緒に歩くコツなど気配りの必要性に気づいたようだった。

(2) 施設の設備を調べよう

校区内の福祉センターや図書館、駅などを見学し、点字や手すり、車イス昇降機など、「みんなが使える」ように工夫された設備があることを知った。

見学後は様々な工夫を新聞にまとめた。また自分たちの学校内の施設を見つめなおし、だれでもが使えるように工夫されているところやそうでないところがあることがわかった。



見学後の児童の感想

- ・ ユニバーサルデザインがいっぱいありました。たとえば、点字や点字ブロックやスロープに手すり、車イスを持ち上げる機械もありました。とてもびっくりしました。
- ・ 桜楽館は、げんかんからだんさがなくて、目の不自由な人でも安全に歩けるようにしてありました。そしてろうかにはかならず手すりがついていました。人のためにいっぱいあったのでびっくりしました。
- ・ 私は、自動はんばいきで下の方にボタンがあって、小さい子どもや車イスの人たちが使えるものを見つけました。自動はんばいきはどこにでもあるけど、こうやってUDになっているところは少ないと思います。

(3) 盲導犬とふれ合おう

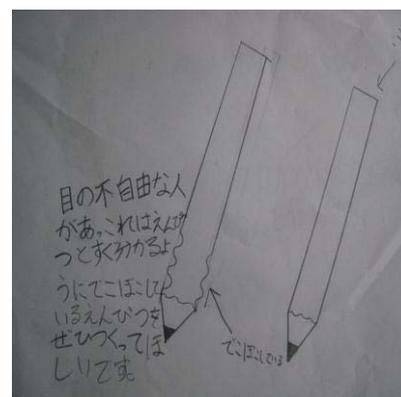
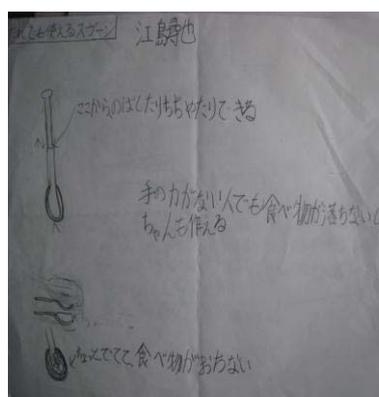
視覚に障がいのある方への理解を深めるために、盲導犬センターの方の話を聞き、盲導犬とじかにふれ合う機会を設定した。子どもたちは盲導犬の実際の動きを見て、人にしっかりと寄り添って歩く姿に驚き、感動した様子だった。その後も、疑問に思ったことを訓練センターに質問したり、インターネットで調べたり、意欲的に学習することができた。



<大勢の人の前でもおとなしい盲導犬> <障害物をよけて歩いています>

(4) ユニバーサルデザインについて考えよう

学習のまとめとして、UDデザインを考え、コンクールに応募した。身近な文房具のデザインを考え、考えた児童が多かった。



8 取組の成果と課題

- 身の回りには、いろいろな場所に工夫された設備があることを知り、関心をもって学習に取り組むことができた。他教科で校外学習に出たときにも、点字ブロックやスロープの存在やその目的に気づき、バリアフリーやユニバーサルデザインについての意識づけができた。
- 盲導犬との出会いによって、視覚に障がいのある方の生活やUDの大切さを肌で感じることができた。
- バリアフリーとユニバーサルデザインの違いを理解することや、自分でユニバーサルデザインを考え出すことは、小学校3年生には少し難しかったようだ。